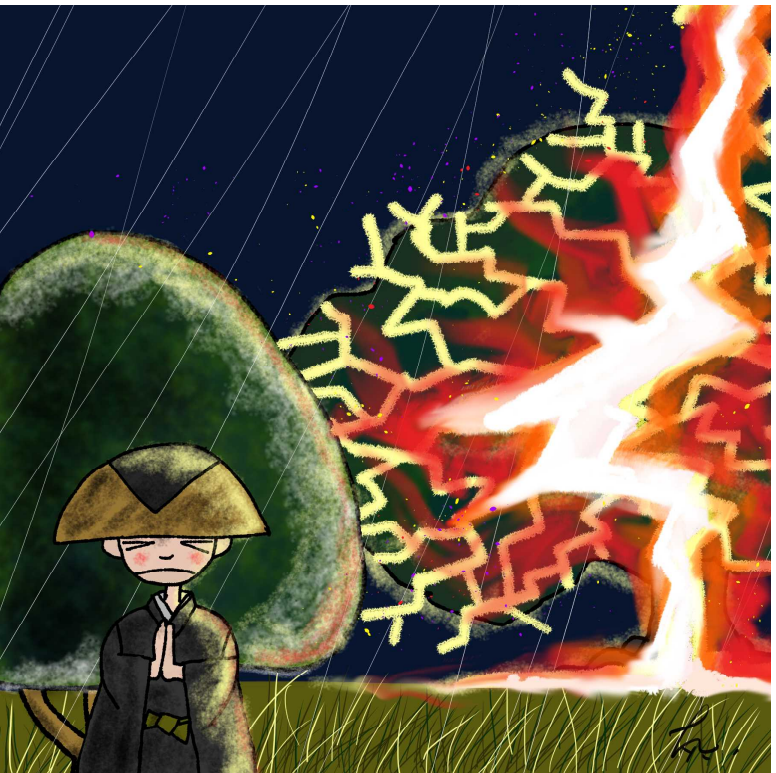


小僧の化け物退治・仁多郡奥出雲町大呂

令和3年7月20日掲載予定

収録・解説・酒井 董美^{たもと} イラスト・福本 隆男



語り手 安部イトさん（明治27年生まれ）
収録・昭和47年2月26日

あらすじ

とんと昔があったげな。昔、あるとこに小僧さんと和尚さんとおったげな。和尚さんが「小僧、われも修業に出て帰れ」言った。そして小僧に次の三つの注意を与えた。「忙しかったら、手を出せ」「大木の根より小木の根」「大間より小間、小間より下段。」

小僧が行きたげなら、雨が降り出して、人が忙しげに洗濯物入れておったから、「忙しかったら、手を出しえな」と思って手伝いましたら、大変に喜ばれた。ずっとうり降ってたら、雷が鳴って大雨が降って大きな木の根元に立ってついでたけれど、一小木の根に立つかな」思って、小木の根に立っておたら、大きな木に雷が落ちて焼けたげな。それからまた行って、暮れたものだから、「泊めてください」て頼んだら、「このそらの寺には、和尚さんが来さえずりや、化けもんが取つて食つてたまらんけん、あそこへ行

きてみさっしやい。飯はうちで食わしてあげえけん」言つた。

それから、そこで夕飯を食べて、大間に座つておつたが、「大間より小間にて、言っちゃおつたが、」と小間へ入つておつたら、化けもんがたがた言わしてアマダから出たげな。今度は、一大間より小間、小間より下段」言わつしやつたけに、そこへ入つていたら、化けもんが三つも寄つて、それから、いい火焚いて当たつて、「これから尋ねえか」言つて、「たつた今、ここに生き坊主がおつたがなあ」言つて尋めるげな。それだけけれど、下段に入つておつて、尋める間に夜が明けて、化けはみんな逃げてしまった。小僧さんが、鐘ゴーンゴーンついたらげな。

そうしたら、鍛冶屋みたいななどこの衆が、「夕べは小僧さんが取られんだったぞよお」言つて喜んで、寺へ駆けつけて、「どげだったかね、小僧さん」言つたら、「化けが出えこと出たども、下段の下へ入つちよつたら、みんな逃げたけん、今日は化け退治しよらうじやないか」言つて、「アマダへ上がつてみしやっしやい。化



けがおおけん」。周りの衆を誘つてアマダへ上がつて、「ここに椿の木のカケヤがあますわあ」そおた。そおが化けだ」言つて「外から来た奴は、西の方の竹山へ行ってみさっしやい。何ぞおおけん」。そこに鶏がおつた。その側に池があつて、その池の鯉を捕つてきて、鯉とその鶏と椿のカケヤが化けもんだつたげなで、みんな退治して、その椿のカケヤなんか割つて焚いたら青火が燃えた。

解説

閑敬吾『日本昔話大成』で調べると本格昔話の「愚かな動物」の中にある「化物寺」が相当する。

「あらすじ」ではかなり割愛しているので、QRコードでみごとな安部さんの元の話をお聴きいただきたい。

（元島根大学法文学部教授）